

1 つぎの おはなしを よんで もんだいに こたえましょう。

リクは絵をかくのが好きだ。学校の図工の時間も、家での時間も、色えんぴつを手にすれば、あっという間に時間が過ぎていく。友だちからも「リクの絵はいつも色がきれいだね」と言われる。

ある日、学校で「町の絵コンクール」に出す作品をかくことになった。リクはうれしくて、家に帰るとすぐにスケッチブックをひらいた。でも、下書きをかき始めてみると、思ったように形がとれない。

「木がへんに曲がっちゃった……。」

リクはため息をついた。形を正しくかくのは、少し苦手だったのだ。

「色は得意でも、形はむずかしいな。」

そうつぶやいたとき、お母さんがのぞきこんだ。

「形をかくのが苦手なら、まずは写真をよく見てまねしてみたら？」

リクは、その方法をためしてみることにした。

次の日から、リクは町を歩きながら、木や建物の形をよく観察（かんさつ）した。家に帰ると、その形をスケッチブックに何度もかきうつした。すると、少しずつ形が正しくかけるようになってきた。

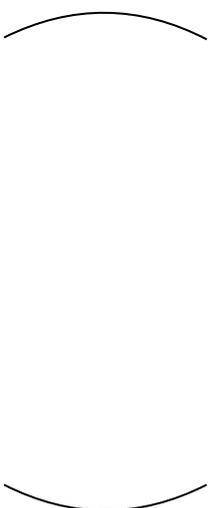
コンクールの日、リクは完成した作品を見て、少し胸をはった。

「色も形も、前よりずっとよくなったぞ。」

苦手なところを知って、それを直そうとしたら、自分のよいところもつとよくなったのだと、リクは思った。

- (1) リクが「得意」だと思っていたことは何ですか。文中から1字で抜き出しましょう。
- こたえ（ ）

- (2) お母さんは、形をかくのが苦手なリクにどんなアドバイスをしましたか。文中の言葉を使って答えましょう。



- (3) リクは苦手なところを直そうとして、どのような行動をしましたか。もっともよいものを選びましょう。

- ① 図工の授業を休んだ
- ② 町を観察して何度も練習した
- ③ 色だけをたくさんぬった

- (4) このお話の内容に合う題名として、もっともよいものを下から1つ選びましょう。

- ① 苦手なことなんてない
- ② 得意と苦手をいかず
- ③ コンクールで負けた日



## 1 つぎの おはなしを よんで もんだいに こたえましょう。

リクは絵をかくのが好きだ。学校の図工の時間も、家での時間も、色えんぴつを手に入れば、あっという間に時間が過ぎていく。友だちからも「リクの絵はいつも色がきれいだね」と言われる。

ある日、学校で「町の絵コンクール」に出す作品をかくことになった。リクはうれしくて、家に帰るとすぐにスケッチブックをひらいた。でも、下書きをかき始めてみると、思ったように形がとれない。

「木がへんに曲がっちゃった……。」「リクはため息をついた。形を正しくかくのは、少し苦手だったのだ。

「色は得意でも、形はむずかしいな。」そうつぶやいたとき、お母さんがのぞきこんだ。

「形をかくのが苦手なら、まずは写真をよく見てまねしてみたら？」

リクは、その方法をためしてみることにした。次の日から、リクは町を歩きながら、木や建物の形をよく観察（かんさつ）した。家に帰ると、その形をスケッチブックに何度もかきうつした。すると、少しずつ形が正しくかけるようになってきた。

コンクールの日、リクは完成した作品を見て、少し胸をはった。

「色も形も、前よりずっとよくなったぞ。」苦手なところを知って、それを直そうとしたら、自分のよいところももっといきたのだと、リクは思った。

(1) リクが「得意」だと思っていたことは何ですか。文中から1字で抜き出しましょう。

こたえ（色）

(2) お母さんは、形をかくのが苦手なリクにどんなアドバイスをしましたか。文中の言葉を使って答えましょう。

写真をよく見てまねしてみたら  
といった

(3) リクは苦手なところを直そうとして、どのような行動をしましたか。もっともよいものを選びましょう。

- ① 図工の授業を休んだ
- ② 町を観察して何度も練習した
- ③ 色だけをたくさんぬった

(4) このお話の内容に合う題名として、もっともよいものを下から1つ選びましょう。

- ① 苦手なことなんてない
- ② 得意と苦手をいかに
- ③ コンクールで負けた日

